第２４回　令和７年５月２０日（火）

「私の趣味は読書で、忙しいときでも月に 10 冊は本を読みます。週末に本屋さんに行かないと落ち着きませんし、出かけるときには必ず文庫本を携帯します。」

相場英雄さんの『覇王の轍』を読みました。大好きな作家さんで読み終わった後とっても考えさせられるのがこの人の作品の特徴です。

もちろんネタバレになるので中身は言えませんが、今回考えさせられたのはインフラの話。老朽化した道路や水道管の話が後を絶ちません。改修に巨額の費用が掛かることは当然として、いまは技術者が不足していて修理に手が回らないのだそうです。

反対というわけではありませんが、大阪万博の大屋根リングとか、維持や修繕費用はどのくらいかかるのかなと心配になります。

新幹線の駅や空港は設備が清潔でものすごくきれいです。お金がかかっていることがよくわかります。一方で国民に身近なローカル線や路線バスは採算が取れなくて廃止されているところが結構あります。神奈川のような首都圏はまだ実感しにくい状況ですが。

どこにお金をかけて、どこのお金を減らしていくのか。それを決めるのが政治です。人口が減少することは明らかなうえに、社会保障費の負担が増す高齢者の割合が高まるわけですから、税金を上げない限り国家の税収は減ることになります。

「コンコルドの原則」と言って、一度お金をかけて作り始めたものは途中でやめると損であるという心理が働くと言われています。有名な超音速旅客機コンコルドもそのような悲劇を生んだ開発競争の遺物です。

インフラ建設が決定されると、それを止めるという決断がなかなかできなくなります。自分の選挙区に空港や新幹線を誘致した場合はなおのこと。

つくったら維持や修理に費用が生じるのは当たり前で、地方の人口が減り続けても道路を無くす決断はできないと思います。しかし橋脚など大きな事故につながるインフラもあるので、安全のための点検は疎かにはできません。

私の住んでいる相模原にもリニアモーターカーが通るということで、駅予定地の橋本は大開発中です。もちろん楽しみでもありますが、安全には最大の配慮をしてほしいと思っています。